

太陽劇団 Théâtre du Soleil

太陽劇団は1964年にフランスで設立。“集団創作”という独自スタイルで知られ、パリ郊外のカルトゥーシュリ(旧弾薬庫)を拠点に活動している。70年に上演されたフランス革命を題材とした『1789』は斬新な演劇手法で、世界的注目を集めた。古典から仮面劇、現代の難民問題を扱った作品まで幅広いレパートリーを持つ。2001年に『堤防の上の鼓手』(新国立劇場)で待望の初来日を果たし、アジアの人形劇、特に日本の文楽のエッセンスを大胆に取り入れた表現が話題となった。22年ぶりとなる日本公演『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』が11月4日・5日にロームシアター京都にて上演される。

<https://rohmtheatrekkyoto.jp/lp/theatre-du-soleil-japan2023/>

アリアーヌ・ムヌーシュキン Ariane Mnouchkine

1939年パリ生まれ。映画プロデューサーを父に持ち、早くから文化的環境の中で育つ。59年ソルボンヌ大学在学中に演劇集団 A.T.E.P.(パリ学生演劇協会)を結成、これが後に太陽劇団へと発展する。64年の太陽劇団旗揚げの前年に日本を旅行し、この時の日本文化体験が、その後の演劇人生に大きな影響を及ぼしたといわれている。パリ郊外のカルトゥーシュリを拠点に独自の集団創作スタイルをとる太陽劇団だが、ムヌーシュキンのリーダーシップのもと古典から現代劇まで多数の話題作を生み出してきた。映画『1789』、『モリエール』などムヌーシュキンによる監督作品もあるが、劇団舞台の映像化にも積極的である。一方で「エコール・ノマド」といったワークショップを各地で開き、若き演劇人の育成にも励んでいる。これらの長年にわたる功績が評価され、2019年に第35回京都賞思想・芸術部門を受賞した。

【トーク聞き手】相馬千秋 Chiaki Soma

NPO法人芸術公社代表理事。アートプロデューサー。領域横断的な同時代芸術のキュレーション、プロデュースを専門としている。過去20年にわたり日本、アジア、欧州で多数の企画をディレクション。その代表的なものは、フェスティバル／トーキョー初代プログラム・ディレクター(2009-2013)、あいちトリエンナーレ2019および国際芸術祭あいち2022パフォーミングアーツ部門キュレーター、シアターコモンズ実行委員長兼ディレクター(2017-現在)、豊岡演劇祭2021総合プロデューサーなど。2015年フランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエ受章、2021年芸術選奨(芸術振興部門・新人賞)受賞。2021年より東京藝術大学大学院美術研究科准教授。2023年にドイツのフランクフルト・オフエンバッハで開催された世界演劇祭テアター・デア・ヴェルト2023のプログラム・ディレクターも務めた。

太陽劇団『1789』上映 & アリアーヌ・ムヌーシュキンとのトーク

2023年10月29日〔日〕13:00

京都芸術劇場 春秋座 (京都芸術大学内)

13:00	映像上映 『1789』(1974年、2時間32分) フランス語上映・日本語字幕 ＜休憩＞
15:45	トーク アリアーヌ・ムヌーシュキン、聞き手：相馬千秋 日本語／フランス語通訳あり 通訳：片岡文子
16:45	終了予定

主催 | 京都芸術大学 舞台芸術研究センター、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)
特別協賛 | 公益財団法人稲盛財団
KYOTO EXPERIMENT 提携プログラム

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto



京都芸術劇場
春秋座

『1789 革命は幸福が完璧になるときに止まらねばならない』

1970年11月、まずミラノのピッコロ・テアトロで初演、翌月、カルトゥーシュリで上演され、太陽劇団の評価を決定的にした初期の代表作である。1973年まで公演は続き(映像は1973年に撮影されたものである)、28万人を超える観客を動員した。1972年には続編ともいべき『1793』がつくられている。

これはまさに「革命」的な作品であった。それは1968年の五月革命の熱狂からまだ醒めぬパリにおいて、フランス革命——本作品は1789年7月14日のバスティーユ襲撃から、8月4日の封建制度廃止の宣言、8月26日の人権宣言、そして秩序の回復を目指して出された10月21日の戒厳令までの短い期間を取り上げる——を主題としていたからだけではない。この作品におけるフランス革命は太陽、(劇団の俳優が演じる)道化芸人たちによって演じられることで、いわば劇中劇化され、演劇性はいっそう強調されている。戯曲を前提とせずに、俳優たちとの集団創造としてこの作品はつくられた。制度化された国立劇場でもなく、商業劇場でもなく、(すでに利用されていなかったとはいえ)弾薬庫という軍事施設で上演され、非劇場空間を芸術の場に変えてみせたこと、ひとつの大きな空間のなかに複数の舞台と通路が設けられ、舞台と客席(ほとんどが立見であるが)が一体となり(観客はこの作品を前にしたのではなく、その中にいたのである)、観客が途中で移動して、位置と視点を変え、選び取ることができるようにされた。そうしたことすべてがそれまでの演劇の約束事からすればまさに画期的なことであり、新しい時代の到来を告げることであった。

藤井慎太郎（早稲田大学文学学術院）

第35回京都賞記念ワークショップ 思想・芸術部門　2019年11月13日(水) 特別上映会
「太陽劇団の軌跡」於：早稲田大学国際会議井深大記念ホール パンフレットより

映画『1789』

本作は、1973年6月にカルトゥーシュリで上演された際の、最後の13公演において撮影された。

撮影: Bernard Zitzerman、Michel Lebon、Jean-Paul Meurisse

撮影協力: Eduardo Serra、Gérald Sterin

録音: Jean Pierre Ruh、Henri Roux、Dominique Dalmasso、Claude Bertrand

助監督: Emmanuel de Bary

スクリプト: Lucie Lichting

ポストシンクロ: Suzette et Jean Duguet

音響調整: Pierre Vuilemain

編集: Françoise Belloux、Frédérique Mathieu、Françoise Clausse

プロデュース: Alexandre Mnouchkine

監督: Ariane Mnouchkine

字幕翻訳: 田ノ口誠悟

舞台『1789』

太陽劇団の作品。1970年11月ミラノのピッコロ・テアトロで初演、以降、348回上演された。

舞台美術製作・照明操作: Baudouin Bauchau、Jean-Noël Cordier、Antonio Ferreira、Claude Forget、Guy-Claude François、Roberto Moscoso

衣裳製作: Jean-Claude Barriera、Christiane Candries、Nathalie Ferreira、Solange Félix、Chantal Forget、Françoise Tournafond、Hélène Seris

音楽監督: Michel Derouin

記録: Sophie Lemasson

管理: Françoise Descotils、Françoise Lemoine、Odile Cointepas

人形・小道具製作: Nicole Princet

宣伝美術: Catherine Legrand

写真: Martine Franck

出演: René Patrignani、Jean-Claude Penchenat、Maxime Lombard、Georges Bonnaud、Fabrice Herrero、Jonathan Sutton、Daïna La Varenne、Franck Poumeyreau、Marie-France Duverger、Gérard Hardy、Anne Demeyer、Joséphine Derenne、Mario Gonzalès、Geneviève Penchenat、Philippe Caubère、Louba Guertchikoff、Nicole Félix、Michel Derouin、Myrrha Donzenac、Jean-Claude Bourbault、Alain Salomon、Roland Amstutz、Françoise Jamet、Clémence Massard、Serge Coursan、Lucia Bensasson、Philippe Hottier、Marc Godard、Jean-François Labouverie、Rosine Rochette、Luc Bartholomé、Michel Toty、Louis Samier、Gilles Milinaire、Philippe Dubois

技術監督: Guy-Claude François

資材調達: Antonio Ferreira

照明: Jean-Noël Cordier

衣裳: Françoise Tournafond

舞台美術: Roberto Moscoso

舞台美術製作: Michel Bricaire、Louis de Grandmaison

演出: Ariane Mnouchkine

カルトゥーシュリの観客たち